



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

Printgroove POD Administration Manager

ユーザーズガイド



Printgroove

目次

1 はじめに

- 1.1 ようこそ 1-1
- 1.2 Printgroove POD Suite の概要 1-6
- 1.3 Administration Manager のシステム要件 1-7
- 1.4 本書の構成 1-7

2 システム管理

- 2.1 Administration Manager ホームページ 2-2
- 2.2 Administration Manager ホームページ 2-4
- 2.3 [プロフィール]、[ヘルプ]、[ログオフ] オプション 2-6

3 Administration Manager の使用方法

- 3.1 [ホーム] メニューオプションの使用法 3-2
- 3.2 [管理] メニューオプションの使用法 3-2
 - 3.2.1 Queue へのログインアクセスの管理 3-3
 - 3.2.2 [注記] 機能の使用 3-5
 - 3.2.3 Queue および Driver の実行ファイルのダウンロード 3-6
 - 3.2.4 [システム] 画面の表示 3-9
- 3.3 [ライセンス] メニューオプションの使用法 3-11
 - 3.3.1 ライセンスの登録 3-11
 - 3.3.2 ライセンスのインポート 3-17
 - 3.3.3 ライセンスの削除 3-19
- 3.4 [ログ] メニューオプションの使用法 3-22
 - 3.4.1 ログ:[ファイル]: 表示とダウンロード 3-22
 - 3.4.2 ログ:[ビューワ] メニューオプション 3-24
- 3.5 [設定] メニューオプションの使用法 3-26
 - 3.5.1 [設定] → [E メール] オプション 3-26
 - 3.5.2 設定:[LDAP] メニューオプション 3-28
- 3.6 [バックアップ] メニューオプションの使用法 3-33
 - 3.6.1 [バックアップ] の設定方法 3-33
 - 3.6.2 [バックアップ] 設定のメッセージ 3-36

| | | |
|-------|-----------------------------|------|
| 3.7 | 〔復元〕メニューオプションの使用方法 | 3-38 |
| 3.7.1 | 〔復元〕の設定方法 | 3-38 |
| 3.7.2 | 〔復元〕設定のメッセージ | 3-40 |
| 3.8 | 〔リーガル情報〕メニューオプションについて | 3-42 |

1 はじめに

1.1 ようこそ

Printgroove POD Administration Manager は、Printgroove POD Suite の Web サービスモジュールです。インターネット上で、ジョブの送信やカスタマイズ、ブルーチェック、処理状況の確認などを行うことができます。

このユーザーガイドでは、Printgroove POD Administration Manager の使用方法を説明します。

登録商標について

KONICA MINOLTA、KONICA MINOLTA ロゴ、シンボルマーク、Giving Shape to Ideas、bizhub、bizhub PRO、bizhub PRESS、Printgroove は、コニカミノルタ株式会社の登録商標または商標です。

PDFNet SDK is copyright PDFTron Systems 2001-2006 and distributed by KONICA MINOLTA, INC. under license. All rights reserved.

Portions Copyright © 2001 artofcode LLC.

このソフトウェアは、Independent JPEG Group の助力を得ています。

Portions Copyright © 1998 Soft Horizons.

All Rights Reserved.

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

LEADTOOLS は、LEAD Technologies, Inc. の登録商標です。

Artifex、Artifex ロゴ、Ghostscript および Ghostscript ロゴは、Artifex Software, Inc. の登録商標です。

Adobe、Acrobat および PostScript は、アメリカ合衆国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標または商標です。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java および Solaris は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

また、Printgroove POD Suite に組み込まれているサードパーティ製品や Printgroove POD Suite が使用しているサードパーティ製品をすべて以下に記載します。

AJS JavaScript Library

サイト：<http://orangoo.com/AmiNation/AJS>

ライセンス：MIT X-11

バージョン：該当なし

著作権：2005 Bob Ippolito、2006 Amir Salihefendic

Apache HTTP Server

サイト：<http://httpd.apache.org/>

ライセンス：Apache 2

バージョン：2.0.55

著作権：ライセンスを参照

Behavior

サイト：<http://bennolan.com/behaviour/>

ライセンス：BSD

バージョン：1.1

著作権：Ben Nolan and Simon Willison

GhostScript

サイト：<http://www.ghostscript.com/awki/Ghostscript>

ライセンス：Artifex OEM Agreement

GreyBox

サイト：<http://orangoo.com/labs/GreyBox/>

ライセンス：LGPL 2.0

バージョン：3.45

著作権：2006 Amir Salihefendic

Java

サイト：<http://java.sun.com>

ライセンス：Java 配布ライセンス

バージョン：1.5

著作権：2001-2005 Sun Microsystems, Inc.

libccgnu2

バージョン：1.3

ライセンス：GNU GPL

Libxml++

バージョン：2.6

ライセンス：GNU LGPL

log4net

サイト：<http://logging.apache.org/log4net/>

ライセンス：Apache 2

バージョン：1.2

著作権：ライセンスを参照

Lucene.Net

サイト：<http://incubator.apache.org/lucene.net/>

ライセンス：Apache 2 Version : 2.0

著作権：ライセンスを参照

mod_mono

サイト：<http://www.mono-project.com>

ライセンス：Apache 2

バージョン：1.1.10

著作権：2002, 2003, 2004 Novell, Inc.

Mono

サイト：<http://www.mono-project.com>

ライセンス：MIT X-11

バージョン：1.1.13.8

著作権：2001-2005 Novell, Inc.

NPGSQL

サイト：<http://pgfoundry.org/projects/npgsql>

ライセンス：LGPL 2.0

バージョン：0.7

著作権：2002 The Npgsql Development Team

PDFNet

サイト：<http://www.pdftron.com/net/>

ライセンス：LGPL 2.0

Phil & Matt Spaces

サイト：<http://www.cowarthill.com/PMS>

ライセンス：LGPL 2.0

バージョン：0.6.37

著作権：2004-2007 Matthew Metnitsky & Phil Tricca

PostgreSQL

サイト：<http://www.postgresql.org>

ライセンス：BSD

バージョン：8.1

著作権：1996-2003 The PostgreSQL Global Development Group

Prototype

サイト：<http://prototype.conio.net>

ライセンス：MIT Style

バージョン：1.5.0_rc0

著作権：2005 Sam Stephenson

Script.aculo.us

サイト：<http://script.aculo.us>

ライセンス：MIT Style

バージョン：1.6.1

著作権：2005 Thomas Fuchs

SWFUpload

サイト：<http://swfupload.mammon.se/>

ライセンス：MIT

バージョン：0.8.6

著作権：© 2007 Mammon, Lars Huring, Olov Nilzén

TinyMCE

サイト：<http://tinymce.moxiecode.com>

ライセンス：LGPL 2.0

バージョン：2.0.6.1

著作権：2003-2006 Moxiecode Systems AB

Tomcat

サイト：<http://tomcat.apache.org>

ライセンス：Apache 2

バージョン：5.5

著作権：ライセンスを参照

XPS

サイト：<http://www.mono-project.com>

ライセンス：MIT X-11、バージョン：1.1.10

著作権：2002, 2003, 2004 Novell, Inc.

YAHOO UI Library

サイト：<http://developer.yahoo.com/yui>

ライセンス：BSD License、バージョン：2.2.0a

著作権：2007 Yahoo! Inc.

本書に記載されているその他の会社名、商品名は、該当各社の登録商標または商標です。

Copyright © 2007 KONICA MINOLTA, INC.

本書で使用されている画面は、実際のもものと異なる場合があります。

本書に記載されている情報は、予告なく変更される場合があります。

1.2 Printgroove POD Suite の概要

Printgroove POD Suite は、CRD/ プリントショップのためのデジタルワークフローソリューションツールです。Printgroove のモジュールは柔軟に設計され、小中規模のプリントショップ向けに最適なソリューションツールです。

Printgroove POD Suite には 3 つのモジュールがあります。

- Printgroove Administration Manager : Printgroove POD システムを管理するための Web ユーティリティです。このユーティリティを使用すると、サーバーの構成、ライセンスおよびシステム設定の制御、レポートおよび更新の監視をすることができます。
- Printgroove POD Ready : Make Ready (仕上げ) 用ツールです。自動 / 手動による割付、ページレイアウト、最終段階での編集をすべてサポートします。
- Printgroove POD Queue : 印刷管理アプリケーションです。プリンタの状況を監視し、プリントジョブの処理状況を把握することができます。プリンタに送信されたジョブの処理、処理済のジョブの工程を監視し、印刷直前のジョブチケット編集にも対応しています。

Printgroove POD Suite は、以下の機能により生産性を向上させ、印刷の人的ミスを回避します。

- Printgroove POD Queue は、最適な出力エンジンを選択して、自動的にジョブを処理します。
- Printgroove POD Queue は、ジョブチケットのエクスポート / インポート機能をサポートします。これによりジョブチケットが変更できるようになります。また、再印刷が簡単になり、印刷ジョブの処理能力が向上します。
- Printgroove POD Ready は、Make Ready (仕上げ) 用のアプリケーションです。シングルクリックで起動し、アクティブな Queue ジョブを編集できます。

さらに Printgroove POD Suite には、オリジナルファイルを JDF/PDF に変換し、ジョブを直接 Printgroove POD の各モジュールに送信できる Printgroove POD Driver が同梱されています。

1.3 Administration Manager のシステム要件

クライアントコンピュータ

| Web ブラウザ (Windows 用) |
|---------------------------|
| Internet Explorer 10.0 以降 |
| Mozilla Firefox 32 以降 |
| Google Chrome |

1.4 本書の構成

本書は、それぞれの章で Printgroove POD を使用するための操作方法を説明しています。

第 2 章：システム管理

この章では、使用許諾契約への同意、Administration Manager の [ホーム] ページへのログイン、Administration Manager の [パスワード] の変更について説明します。

第 3 章：Administration Manager の使用方法

この章では、Printgroove POD Administration Manager が提供する主要な機能の操作方法について説明します。

2 システム管理

POD Queue Windows サーバーをインストールします。インストールと設定（Printgroove POD Administrator を使用）が完了すると、Queue クライアントがサーバーを使用してジョブを処理できるようになります。Queue クライアントは単独のソフトウェアで、ライセンスが付与されているユーザーの各コンピュータにインストールする必要があります。1 台のコンピュータで実行できるのは、POD Queue サーバーと単一の POD Queue クライアントです。

Printgroove POD Administration Manager を使用すると、サーバーの設定、システム設定のカスタマイズ、システムレポートやアップデートの監視ができます。

Administration Manager を使用するには、最初に Printgroove POD Queue サーバーをインストールします。Printgroove POD Queue サーバーをインストールしたコンピュータの IP アドレスをメモしておきます。この IP アドレスは、Administration Manager へのアクセスに使用します。Administration Manager から Queue クライアントをダウンロードしてローカルに保存できます。ダウンロードした Queue クライアントをユーザーに配布し、各システムにインストールできます。（ライセンス制限が適用されます。）（Queue クライアントのダウンロード手順については、「Queue および Driver の実行ファイルのダウンロード」(p. 3-6) をご覧ください。)

この章では、Printgroove POD Administration Manager の以下の操作手順について説明します。

- ログインと EULA（使用許諾契約）
- Administration Manager のホームページへのアクセス
- Administration Manager の [パスワード] や [使用する言語] の変更

2.1 Administration Manager ホームページ

Administration Manager へのログイン方法

- 1 [PGQueueServer.exe] がインストールされているコンピュータの IP アドレスをメモします。
- 2 ブラウザを起動し、以下のアドレスを入力します。
 - `http://xxx.xxx.xxx.xxx:8180/admin/` (x には、IP アドレスの値を入力)
- 3 [ログイン] 画面が表示されます。



- 4 [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。初期設定値は、以下のとおりです。
 - [ユーザー名] :
 - [パスワード] :

- 5 間違った「ユーザー名」または「パスワード」を入力すると、エラー画面が表示されます。



- 6 ログイン完了後、アプリケーションの初回起動時に「ソフトウェア使用許諾書」(EULA) 画面が表示されます。



- 7 「EULA 言語の選択」ドロップダウンリストから使用許諾契約を表示する言語を選択します。以下のオプションがあります。英語、日本語、フランス語、ドイツ語。
- 8 選択された言語で使用許諾契約が表示されます。スクロールしてお読みください。
- 9 「同意します」をクリックして続行します。「同意しません」をクリックすると、ログイン画面に戻ります。
- 10 「同意します」を選択した場合は、Administration Manager の「ホーム」画面が表示されます。

2.2 Administration Manager ホームページ

Printgroove POD システムの設定には、画面左側のメニューを使用します。オプションをクリックすると、メインパネルに設定が表示されます。（メニューオプションの詳細は、第 3 章で説明します。）

[ホーム] ページのメインパネルには、次の項目が示されます。

- [ホスト]：Printgroove POD Queue サーバーをインストールしたコンピュータの IP アドレス。
- [総容量]：コンピュータの OS がインストールされているハードドライブのストレージ領域の合計サイズ。
- [使用]：データの保存に使用されているコンピュータ上の領域のサイズ。
- [フリー]：データの保存に使用できるコンピュータ上の空き領域のサイズ。



ログインが完了すると、Administration Manager のホーム画面が表示されます。

- 左側にメニューボタンが表示されます。ボタンをクリックします。2 階層目のメニューがないオプションの場合は、選択したオプションの内容がメインパネルに表示されます。
- メニューボタンに複数の機能がある場合は、メニューボタンをクリックすると、2 階層目のメニューのボタンが開きます。2 階層目のメニューのボタンをクリックすると、選択したオプションの内容がメインパネルに表示されます。
- メニューと 2 階層目のメニューボタンの操作で表示するメインパネルには、さらにモジュールリストの選択肢がある場合があります。
- メインパネルのモジュールリスト項目を選択すると、メインパネル内の表示が変わります。



2.3 [プロフィール]、[ヘルプ]、[ログオフ] オプション

[プロフィール]、[ヘルプ]、[ログオフ] オプションは、Administration Manager のどの画面でも右上に固定で表示されます。



[パスワード] の変更

- 1 [プロフィール] リンクをクリックします。このリンクは、Administration Manager のどのページでも右上に表示されます。[プロフィールの編集] 画面が表示されます。



- 2 [パスワード] フィールドに新しい値を入力し、[パスワードの確認] フィールドに同じ値を再入力します。
- 3 [言語] ドロップダウンリストから言語を指定します。この項目は必須項目です。
- 4 [送信] をクリックします。新しいパスワードが保存され、次回ログインにはこのパスワードの入力を求められます。[キャンセル] をクリックすると、変更内容が破棄されて、画面が閉じます。

[Application Language] の変更

プロフィールにも、[言語] のオプションがあります。Administration Manager の初期設定では、クライアントやサーバーの OS の言語に関係なく英語で表示されます。この値は変更できます。

- 1 [プロフィール] リンクをクリックします。このリンクは、Administration Manager のどのページでも右上に表示されます。[プロフィールの編集] 画面が表示されます。
- 2 [言語] ドロップダウンリストから言語を指定します。[送信] をクリックします。新しい言語オプションが保存されます。[キャンセル] をクリックすると、変更内容が破棄され、画面が閉じます。
- 3 ログアウトして、再度ログインします。選択した言語でアプリケーションが表示されます。

ログオフ

- 1 [ログオフ] リンクをクリックします。このリンクは、Administration Manager のどのページでも右上に表示されます。[プロフィールの編集] 画面が表示されます。
- 2 ログイン画面に戻ります。[ユーザー名] と [パスワード] のフィールドは空白です。
- 3 Administration Manager が起動している場合は、10 時間以上操作をしないと自動的にログオフします。自動的にログイン画面に戻り、[ユーザー名] と [パスワード] のフィールドが空白で表示されます。

ヘルプの使用

- 1 [ヘルプ] リンクをクリックします。このリンクは、Administration Manager のどのページでも右上に表示されます。
- 2 ヘルプは、コンテキスト依存で、Administration Manager のアクティブなページに関連のあるトピックが表示されます。開いたヘルプ画面から、すべてのヘルプ画面に移動できます。

3 Administration Manager の使用方法

Administration Manager にログインすると、[ホーム] ページが表示されます。左側のメニューボタンを使用すると、Administration Manager の主要な機能にアクセスできます。メニューや 2 階層目のメニューボタンをクリックすると、メインパネルに設定の状況または変更が表示されます。



このセクションでは、以下のメニューオプションについて説明しています。

- ホーム
- 管理
- ライセンス
- ログ
- 設定
- バックアップ
- 復元
- リーガル情報

3.1 [ホーム] メニューオプションの使用法

メニューオプションの「ホーム」をクリックして、「ホーム」ページを開きます（この画面の機能については、「Administration Manager ホームページ」（p. 2-4）をご覧ください）。

3.2 [管理] メニューオプションの使用法

メニューオプションの「管理」をクリックして、「管理」ページを開きます。2 階層目のメニューボタンはありません。メインパネルにはモジュールリストの選択肢「Queue」および「システム」の 2 つの項目があります。

初期設定では、「Queue」の内容がメインパネルに表示されます。



「管理」→「モジュール」→「Queue」の順に選択すると、以下のオプションが表示されます。

- 「URL」：Printgroove Queue サーバーが格納されているファイルの場所です。また、このオプションを使用すると、Queue クライアントと Driver 実行ファイルをダウンロードするページにアクセスできます。詳細は、「Queue および Driver の実行ファイルのダウンロード」（p. 3-6）をご覧ください。
- 「ステータス」：Queue クライアントへのログインアクセス状況が表示されます。
- 「バージョン」：コンピューターにインストールされている Queue クライアントのバージョンです。
- 「注記」：このページに表示された Queue のカスタマイズの詳細です。

3.2.1 Queue へのログインアクセスの管理

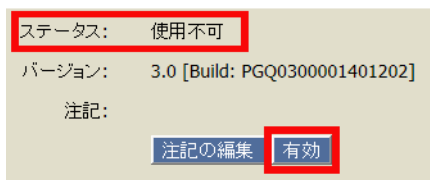
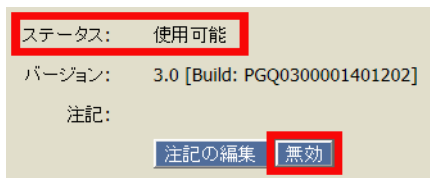
[管理] → [モジュール] → [Queue] の順に選択すると、Queue クライアントモジュールへのユーザーのログインアクセスを管理できます。

初期設定では、アクセスが許可され、[ステータス] 値は [使用可能] です。

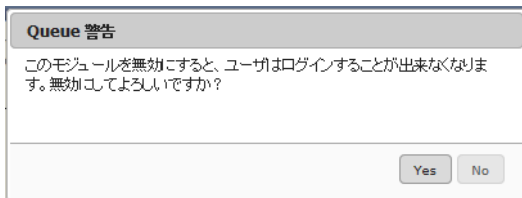
問題を解決する必要がある場合は、アクセスを [使用不可] にできます。[ステータス] の値を [使用不可] にすると、アクティブなクライアントユーザーは作業できますが、新しいクライアントログインは禁止されます。

Queue クライアントのログインアクセスの [有効化] と [無効化]

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [管理] メニューオプションをクリックします。
- 3 メインパネルに、[モジュール] → [Queue] が表示されます（初期設定）。
- 4 メインパネルの [ステータス] には、Queue クライアントのログインの現在の状態が表示されます。ステータスは [使用可能] または [使用不可] です。
- 5 [使用可能] の場合、[無効] がメインパネルの最下部に表示されず。[使用不可] の場合、[有効] が表示されます。



- 6 [無効] をクリックすると、以下のポップアップ画面が表示されます。



- 7 [Yes] をクリックすると続行され、[No] をクリックすると設定がキャンセルされます。短い完了メッセージが表示され、[ステータス] の値が [使用可能] に変更されます。



ご注意

Queue モジュールを無効にすると、すべての Queue ユーザーはアプリケーションにログインできなくなります。このモジュールを無効にするのは、システムの使用率が最小のときに限定することをおすすめします。

- 8 問題が解決されたら、[有効] をクリックします。短い完了メッセージが表示され、[ステータス] の値が [使用不可] に変更されます。

3.2.2 [注記] 機能の使用

[管理] → [モジュール] → [Queue] が有効状態の場合、メインパネルの [注記] セクションには、関連のメモを入力できます。

注記の [追加] または [編集]

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [管理] メニューオプションをクリックします。
- 3 メインパネルに、[モジュール] → [Queue] が表示されます（初期設定）。
- 4 メインパネルの最下部に表示された [注記の編集] をクリックします。表示されたテキストフィールドに、注記を入力できます。[注記の編集] が [注記の保存] に変わります。
- 5 必要なコメントを入力します。使用する文字数に制限はありません。入力の内容が表示領域を超える場合は、スクロールバーが表示されません。
- 6 画面を終了する場合は、[キャンセル] をクリックします。注記は保存されません。
- 7 [注記の保存] をクリックします。テキストフィールドが閉じて、メインパネルに注記が表示されます。

バージョン: 3.0 [Build: PGQ0300001401202]

注記:

注記無しの状態

バージョン: 3.0 [Build: PGQ0300001401202]

注記:

テキストフィールドに
注記を入力する状態

バージョン: 3.0 [Build: PGQ0300001401202]

注記: サンプル注記

注記が追加された状態

- 8 注記を編集または削除するには、必要に応じてこの手順を繰り返し、テキストフィールドの内容を編集または削除します。

3.2.3 Queue および Driver の実行ファイルのダウンロード

Printgroove Administration Manager が提供する URL のハイパーリンクを使用すると、Queue クライアントと Printgroove POD Driver の実行ファイルをダウンロードしてローカルに保存できます。ダウンロードした実行ファイルは、再配布してローカルにインストールできます（Queue の使用には適切なライセンスが必要です）。ファイルを再配布する前に、Queue および Driver のユーザーズガイドを参照し、配布先の OS がサポート対象であることを確認してください。

Queue クライアントと Driver の実行ファイルの [ダウンロード]

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [管理] メニューオプションをクリックします。メインパネルに Queue モジュールが表示されます。
- 3 URL リンクをクリックします。Printgroove POD Queue Web クライアントが開きます。



- 4 [ユーティリティ] アイコンをクリックし、[ユーティリティ] 画面を表示します。



- 5 以下の値を入力します。

- [ユーザ名]:
- [パスワード]:



- 6 [Printgroove POD Queue ユーティリティにログイン] をクリックします。Queue クライアントやドライバのダウンロード画面が表示されます。

- 7 ダウンロードする実行ファイルを確認します。Queue クライアントのファイルは 1 種類です。Printgroove POD Driver の場合は、Driver をインストールする OS に基づき、32-bit、64-bit、MSI 32-bit、MSI 64-bit、Mac などの異なる名前がファイルに付けられています。



- 8 ハイパーリンクをクリックし、画面の指示にしたがって実行ファイルをダウンロードします。
- 9 必要なファイルをダウンロードした後、画面右上の [X] をクリックして、Printgroove Queue Web Utilities を閉じます。
- 10 実行ファイルをクリックしてインストールを開始します。必要に応じて、Printgroove POD クライアントや Printgroove POD Driver（後者は Printgroove POD Queue クライアントへのジョブの送信に使用）を使用するユーザーに実行ファイルを再配布します。

3.2.4 [システム] 画面の表示

[管理] → [モジュール] → [システム] ページには、以下のサービスがあります。



- [PdfServer] : Queue により PDF ファイルの検査に使用されます。Queue のプリントジョブでは PDF 形式が必要です。
- [Postgresql 9.2] : Administration Manager/Queue のデータの保存に使用されます。

トラブルシューティングを実行する場合に、サービスの [再起動] または [終了] が役立ちます。[再起動] をクリックすると、画面上のオプションが [終了] に変更されます。[終了] をクリックすると、画面上のオプションが [再起動] に変更されます。

サービスの停止方法

[終了] オプションを使用できる場合は、サービスを停止できます。[終了] オプションがない場合は、停止を実行すると Web やネットワーク上でシステムが不安定なる、または使用できなくなることがあるため停止できません。

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [管理] をクリックします。
- 3 [モジュール] → [システム] の順に選択します。メインパネルに [システム] が表示されます。
- 4 停止するサービスオプションを選択して、[終了] ハイパーリンクをクリックします。
 - [PdfServer] : PDF サーバーが停止していると、ジョブは処理できません。ただし、Queue クライアントにログインおよびアクセスして、他の操作を行うことができます。

サービスの再起動方法

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [管理] をクリックします。
- 3 [モジュール] → [システム] の順に選択します。メインパネルに [システム] が表示されます。
- 4 再起動する [サービス] オプションを選択して、[再起動] ハイパーリンクをクリックします。
 - [PdfServer] : サービスの再起動中は、新しいユーザーが Queue クライアントにログインできませんが、PDF サーバーの再起動が完了するまで、ジョブを処理することはできません。
 - [Postgresql 9.2] : サービスの再起動中は、[Windows] の [サービス] コンソールに移動して、Printgroove POD Queue サーバーを再起動するまで、新しいユーザーが Queue クライアントにログインできません。
<http://www.postgresql.org/about/>

3.3 「ライセンス」メニューオプションの使用方法

メニューの「ライセンス」をクリックすると、「ライセンス管理」のメインパネルが表示されます。



この画面には、以下の4つの情報や機能があります。

- 「Printgroove POD Queue ライセンス」表：この表には、すべての有効なライセンスが、ライセンスごとの詳細と一緒に表示されます。有効なライセンスがない場合、この表は空白で表示されます。Queue を使用するには、ライセンスの登録手順を実行してください。
- 「ライセンス登録」ボタン：ライセンス登録の手順を開始します。
- 「ライセンスのインポート」ボタン：Administration Manager にライセンスをインポートできます。これは、ライセンスの登録手順の一部です。
- 「削除」：有効なライセンスが表示されている場合にだけ表示されます。クリックすると、有効なライセンスの削除手順を開始します。

3.3.1 ライセンスの登録

登録手順を開始する前に、コニカミノルタサービス実施店から提供される「ライセンスキー」を確認してください。個別に発行されたライセンスキーがコニカミノルタサービス実施店から提供されています。

ライセンスキーを入手すると、Administration Manager を起動して、登録手順を開始できます。Administration Manager での登録手順中に生成されたファイルは、コニカミノルタの Web サイトにアップロードして、有効化をする必要があります。ファイルをアップロードし、確認された後に有効なレスポンスファイルを受け取ることができます。レスポンスファイルをインポートし、ライセンスのアクティベーション手順を完了します。

ライセンスについて

Printgroove POD Queue のライセンスには、[Regular]、[SSL]、および [NFR] の 3 種類があります。[SSL] と [NFR] はコニカミノルタの外部には配布されないため、ここでは説明しません。

Regular ライセンス

このライセンスパッケージには、[ライセンスキー] が 1 つ付属しています。アクティベーションを行うと、ライセンス管理の表にライセンスパッケージが 1 つのエントリとして表示されます。



[モジュール] 列には、ライセンスが付与されているさまざまなコンポーネントがすべてリスト表示されます。標準の [Regular] ライセンスは、ライセンスが付与された以下のコンポーネントを含みます。

- [ユーザー]：最大 5 個の Queue クライアントをインストールできます。
- [Device]：Queue クライアント 1 個あたり最大 5 台のプリンターを使用できます。
- [ジョブ]：インストールされた Queue クライアント 1 個あたりのジョブ数は制限されていません。

登録のルールと概要

この手順を開始するには、[ライセンスキー] が必要です。ライセンスキーは、コニカミノルタサービス実施店から提供されています。次の手順に進む前に、24 桁のライセンスキーがあることを確認してください。

[ライセンスキー] は、[Regular] ライセンスに対して発行されます。[Regular] ライセンスがある場合は、[クラスタ] ライセンスや最大 5 個の [Device] ライセンスを追加購入できます。これらは [Optional] ライセンスとみなされますが、登録が必要です。

[Optional] ライセンスがある場合は、先に [Regular] ライセンスを登録し、次に [Optional] ライセンスを登録してください。[Regular] ライセンスが有効になり、Printgroove Queue の機能が正しく動作することを確認した後、購入した [クラスタ] ライセンスや、最大 5 個までの [Devices] ライセンスなどの [Optional] ライセンスを登録できます。

手順にしたがって登録を完了しますが、ここに示されている手順は、登録手順の基本的な概要です。

- ご購入された [Optional] ライセンスには、コニカミノルタサービス実施店から個別の [ライセンスキー] が提供されています。入手した [ライセンスキー] は、以下に示す手順にしたがって、個別に [Optional] ライセンスを登録してください。
- この手順では、bin 形式のファイルを生成します。このファイルは操作しているコンピューターのローカルフォルダに保存します。保存した場所を忘れないようにメモしておいてください。
- 7 日以内に、これらの手順に示されたコニカミノルタの Web サイトにアクセスし、bin 形式のファイルをアップロードして有効化をしてください。有効化が正しく完了すると、コニカミノルタにより bin 形式のレスポンスファイルが生成されます。このファイルをローカルフォルダに保存し、保存した場所をメモしておいてください。
- 最後に、Printgroove Administration Manager に戻り、受け取った bin 形式のレスポンスファイルをインポートします。これによりライセンスのアクティベーションが実行されます。

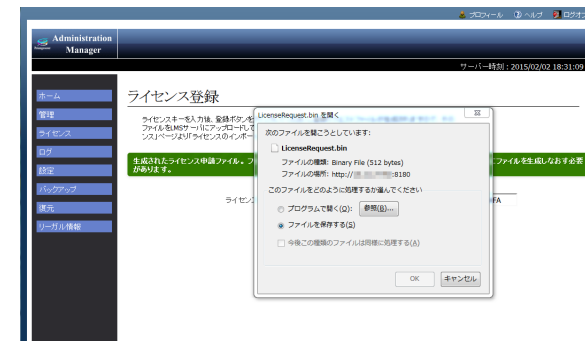
ライセンスの登録手順

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [ライセンス] メニューオプションをクリックします。
- 3 メインパネルで [ライセンス登録] をクリックします。ライセンス登録の画面が表示されます。



- 4 このページには、以下の3つのボタンがあります。
 - [クリア]: [ライセンスキー] フィールドに入力した値が削除されます。
 - [戻る]: [ライセンス管理] のメインパネルに戻ります。
 - [登録]: この後の手順で説明するように、登録プロセスが開始されます。
- 5 [ライセンスキー] に、コニカミノルタサービス実施店から提供された値を入力します。ドキュメントに記載されているとおりに値を入力してください。[登録] をクリックします。
- 6 入力された [キー] が無効な場合や、すでに登録済みでアクティベーションが完了している場合は、エラーメッセージが表示されライセンスの状態が確認できます。[キー] が無効な場合は、速やかにコニカミノルタサービス実施店にご連絡ください。

- 7 入力された[キー]が有効で、アクティベーションが実行されていない場合は、[LicenseRequest.bin] ファイルが生成されます。.bin ファイルを保存するかどうかを尋ねるポップアップ画面が表示されます。



- 8 保存場所を選択します。保存場所をメモし、[OK] をクリックします。ファイルが保存されます。



ご注意

.bin ファイルの有効期限は、7 日間です。ファイルの生成後は、7 日以内に次の手順を必ず実行してください。

- 9 <https://licensemanage.com/PPOffline/> に移動します。[ライセンス認証] 画面が表示されます。



- 10 [参照] をクリックし、手順 8 で保存した [LicenseRequest.bin] ファイルを選択します。[OK] をクリックします。[参照] フィールドに、ファイルへのパスが表示されます。
- 11 [開始] をクリックします。認証が開始されます。認証が正しく完了すると、[LicenseRequest-Res.bin] ファイルが生成されます。
.bin ファイルを [保存] するかどうかを尋ねるポップアップ画面が表示されます。
- 12 保存場所を選択します。保存場所をメモし、[OK] をクリックしてポップアップ画面を閉じます。ファイルが保存されます。
- 13 <https://licensemanage.com/PPOffline/> を閉じます。
- 14 「[ライセンスのインポート] (p. 3-17)」に進み、手順を完了してください。

3.3.2 ライセンスのインポート

受け取った [LicenseRequest-Res.bin] ファイルを Printgroove POD Administration にインポートし、登録プロセスを完了します。

[LicenseRequest-Res.bin] ファイルの保存場所を忘れないようにしてください。このファイルの保存場所は、以下の手順で必要になります。

ライセンスのインポート方法

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [ライセンス] メニューオプションをクリックします。
- 3 メインパネルで [ライセンスのインポート] をクリックします。[ライセンスのインポート] 画面が開きます。



- 4 このページには、以下の 4 つのボタンがあります。
- [クリア]: [ライセンスキー] フィールドに入力した値が削除されます。
 - [戻る]: [ライセンス管理] のメインパネルに戻ります。
 - [参照]: この後の手順で説明するように、[LicenseResponse.txt] ファイルの場所を指定します。
 - [インポート]: この後の手順で説明するように、[LicenseResponse.txt] ファイルをインポートします。

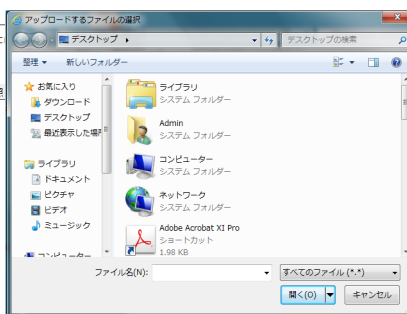
- 5 [参照] をクリックします。ナビゲーション画面が表示されます。

ライセンスのインポート

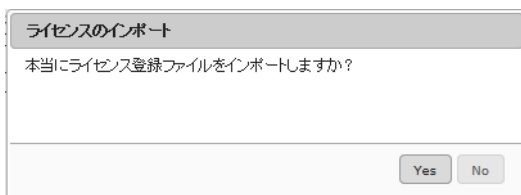
「参照」ボタンをクリックし、レスポンスファイルを選択してください(ライセンス登録時にファイルです)。ファイル選択後、「インポート」ボタンをクリックしてください。

インポートするファイルの選択:

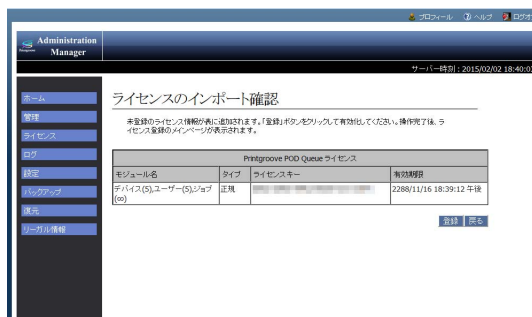
[参照](#) [クリア](#) [インポート](#) [戻る](#)



- 6 ファイルの保存場所を参照し、[LicenseRequest-Res.bin] ファイルを選択します。[ライセンスのインポート] 画面で [インポート] をクリックします。
- 7 問題がある場合は、画面にポップアップメッセージが表示され、[インポート] の失敗に関する詳細が表示されます。
- 8 選択した LicenseRequest-Res.bin ファイルが正しくインポートされると、ライセンスのインポートを確認するポップアップメッセージが表示されます。



- 9 [No] をクリックすると、処理がキャンセルされます。[Yes] をクリックすると、[ライセンスのインポート確認] 画面が表示されます。



- 10 登録されたライセンスの情報が表形式で表示されます。
- 11 [登録] をクリックします。
- 12 ライセンスが登録され、ライセンスの管理画面に戻ります。新しくアクティベーションされたライセンスの情報が表形式で表示されます (表の詳細は、「[ライセンスについて] (p. 3-12)」をご覧ください)。
- 13 [戻る] をクリックする、アプリケーションを閉じる、または [登録] をクリックせずにこのページを閉じると、情報がクリアされ、ライセンスのアクティベーションが実行されません。この場合は、インポート手順を最初から繰り返し、ライセンスをアクティベーションする必要があります。

3.3.3 ライセンスの削除

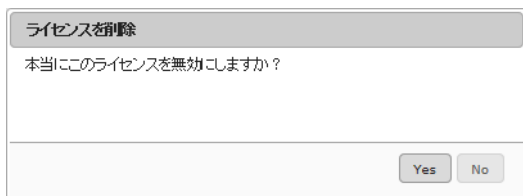
表に有効なライセンスが表示されている場合は、それらのライセンスを無効にできます。ライセンスを [削除] すると、[LicenseResponse.bin] ファイルが生成されます。[LicenseResponse.bin] ファイルの保存場所を忘れないようにしてください。このファイルの保存場所は、以下の手順で必要になります。

Regular ライセンスのアンインストール

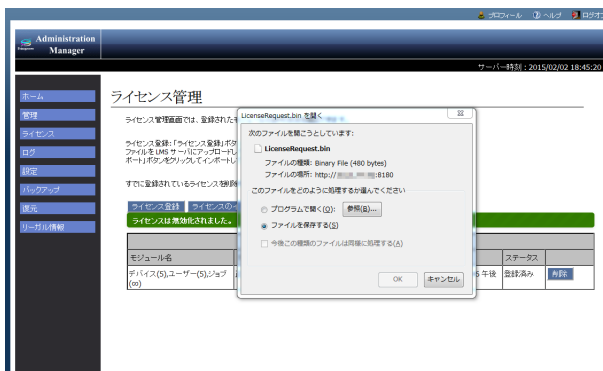
追加された [Optional] ライセンスがある場合 (クラスタライセンス 1 個、Devices ライセンス 1 ~ 5 個)、[Regular] ライセンスをアンインストールする前に、それらのライセンスをアンインストールする必要があります。[Optional] ライセンスをすべて削除する前に [Regular] ライセンスをアンインストールすると、上記のアンインストール条件を説明するメッセージが表示されます。

ライセンスの削除手順

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [ライセンス] メニューオプションをクリックします。
- 3 メインパネルで、削除する行にある[削除]をクリックします。確認画面が表示されます。



- 4 [Yes] をクリックすると有効なライセンスが削除され、[No] をクリックすると削除がキャンセルされます。[Yes] をクリックすると、[LicenseRequest.bin] ファイルが生成されます。.bin ファイルを[保存] するかどうかを尋ねるポップアップ画面が表示されます。



- 5 [保存] 場所を選択します。保存場所をメモし、[OK] をクリックします。ファイルが保存されます。

- 6 <https://licensemanage.com/PPOffline/> に移動します。[ライセンス認証] 画面が表示されます。



- 7 [参照] をクリックし、手順 5 で保存した [LicenseRequest.bin] ファイルを選択します。[OK] をクリックします。[参照] フィールドに、ファイルへのパスが表示されます。
- 8 [開始] をクリックします。認証を開始します。認証が完了すると、ライセンスの無効化が完了したことを示すメッセージが表示されます。
- 9 完了後、<https://licensemanage.com/PPOffline/> を終了します。

3.4 [ログ] メニューオプションの使用方法

Printgroove は、システムのすべての動作を記録します。この動作は、ログファイルとしてサーバーに保存されます。システム管理者は、[ログ] メニューを使用して、これらのログファイルを表示、ダウンロードして、セキュリティやトラブルシューティングに役立てることができます。

3.4.1 ログ：[ファイル]：表示とダウンロード

メニューの[ログ] をクリックすると、2 階層目のメニューの[ファイル] と[ビューワ] が表示されます。

[ファイル] を選択すると、メインパネルにモジュールリストの選択肢 [Queue]、[PdfServer]、[Postgresql]、[Backup & Restore] が表示されます。初期設定では、[Queue] が選択され、メインパネルに表示されています。



ログファイル

モジュールまたはサービスのログファイルを参照するには、エクスポートリスト上のログファイル名をクリックして、右に移動し、選択されたモジュールのログファイルが右側に表示され、ログファイル名をクリックすると右側のパネルにダウンロードすることが出来ます。

| モジュール | ファイル | サイズ | 作成 |
|------------------|----------------------------------|-------|---------------------|
| Queue | pgqueuetomcat.log | 217KB | 2015/01/27 05:17 午後 |
| PdfServer | pgqueuetomcat.log.2015-01-26.log | 390KB | 2015/01/26 11:59 午後 |
| | pgqueuetomcat.log.2015-01-25.log | 550KB | 2015/01/25 11:59 午後 |
| Postgresql | pgqueuetomcat.log.2015-01-24.log | 550KB | 2015/01/24 11:59 午後 |
| Backup & Restore | pgqueuetomcat.log.2015-01-23.log | 406KB | 2015/01/23 11:59 午後 |
| | pgqueuetomcat.log.2015-01-22.log | 120KB | 2015/01/22 11:59 午後 |
| | pgqueuetomcat.log.2015-01-21.log | 28KB | 2015/01/21 11:37 午後 |
| | pgqueuetomcat.log.2015-01-20.log | 14KB | 2015/01/20 11:36 午後 |
| | pgqueuetomcat.log.2015-01-19.log | 42KB | 2015/01/19 07:45 午後 |

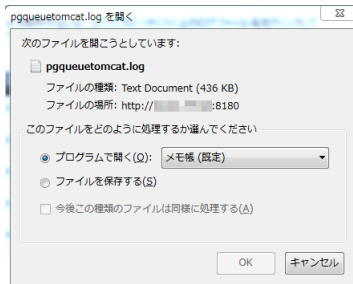
ログ [ファイル] の表示およびダウンロード手順

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [ログ] → [ファイル] をクリックします。メインパネルに [Queue] のログが表示されます。
- 3 特定のファイルにアクセスするには、モジュールリストオプションの [Queue] (初期設定)、[PdfServer]、[Postgresql]、または [Backup & Restore] を選択します。選択されたオプションのファイルがメインパネルに表示されます。

| モジュール | ファイル | サイズ | 作成 |
|------------------|---|-------|---------------------|
| Queue | pgqueueomcat.log | 217KB | 2015/01/27 05:17 午後 |
| | pgqueueomcat.log.2015-01-26.log | 390KB | 2015/01/26 11:59 午後 |
| PdfServer | pgqueueomcat.log.2015-01-25.log | 550KB | 2015/01/25 11:59 午後 |
| Postgresql | pgqueueomcat.log.2015-01-24.log | 550KB | 2015/01/24 11:59 午後 |
| Backup & Restore | pgqueueomcat.log.2015-01-23.log | 406KB | 2015/01/23 11:59 午後 |
| | pgqueueomcat.log.2015-01-22.log | 120KB | 2015/01/22 11:59 午後 |
| | pgqueueomcat.log.2015-01-21.log | 28KB | 2015/01/21 11:37 午後 |
| | pgqueueomcat.log.2015-01-20.log | 14KB | 2015/01/20 11:36 午後 |
| | pgqueueomcat.log.2015-01-19.log | 42KB | 2015/01/19 07:45 午後 |
| | | | |
| モジュール | ファイル | サイズ | 作成 |
| Queue | PGQueuePDFServerLogs.log | 16KB | 2015/01/26 04:06 午後 |
| PdfServer | PGQueuePDFServerLogs.log.2015-01-23.log | 15KB | 2015/01/23 04:06 午後 |
| | PGQueuePDFServerLogs.log.2015-01-21.log | 16KB | 2015/01/21 07:17 午後 |
| Postgresql | PGQueuePDFServerLogs.log.2015-01-20.log | 10KB | 2015/01/20 02:47 午後 |
| Backup & Restore | PGQueuePDFServerLogs.log.2015-01-19.log | 3KB | 2015/01/19 07:30 午後 |
| Queue | postgresql-2015-01-27.log | 1KB | 2015/01/27 05:10 午後 |
| | postgresql-2015-01-26.log | 1KB | 2015/01/26 12:00 午前 |
| PdfServer | postgresql-2015-01-25.log | 1KB | 2015/01/25 12:00 午前 |
| Postgresql | postgresql-2015-01-24.log | 1KB | 2015/01/24 12:00 午前 |
| Backup & Restore | postgresql-2015-01-23.log | 1KB | 2015/01/23 12:00 午前 |
| | postgresql-2015-01-22.log | 1KB | 2015/01/22 12:00 午前 |
| | postgresql-2015-01-21.log | 1KB | 2015/01/21 01:38 午後 |
| | postgresql-2015-01-20.log | 1KB | 2015/01/20 02:31 午後 |
| | postgresql-2015-01-19.log | 10KB | 2015/01/19 07:43 午後 |
| | | | |
| モジュール | ファイル | サイズ | 作成 |
| Queue | pgqueuebackuprestore.log | 1KB | 2015/01/19 07:31 午後 |
| PdfServer | | | |
| Postgresql | | | |
| Backup & Restore | | | |

- 4 [モジュール] にファイルがない場合、この部分は空白になります。

- 5 ログファイルをダウンロードするには、ファイルの名前をクリックします。名前にハイパーリンクが設定されクリックすると、ポップアップ画面が表示されます。



ご注意

ファイル名と拡張子をメモしておくと、後で簡単にアクセスできます。

- 6 ファイルの「保存」を選択して「OK」をクリックします。ポップアップ画面が閉じます。選択したファイルがローカルフォルダに保存され、必要に応じて表示できるようになります。

3.4.2 ログ：[ビューワ] メニューオプション

[ログ] → [ビューワ] をクリックすると、モジュールリストに [Queue]、[PdfServer]、[Postgresql]、[Backup & Restore] が表示されます。初期設定では、[Queue] が選択され、メインパネルに表示されています。



ログファイルの表示方法

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [ログ] → [ビューフ] をクリックします。メインパネルに [Queue] のログが表示されます。
- 3 特定のログファイルのセットを表示するには、モジュールリストオプションの [Queue] (初期設定)、[PdfServer]、[Postgresql]、または [Backup & Restore] を選択します。選択したモジュールの最新のログファイルがメインパネルに表示されます。

| モジュール | |
|------------------|--|
| Queue | 2015-01-27 00:00:12,604 [DD2DiscoveryEngine] INFO 2015-01-27 00:00:12,633 [DD2DiscoveryEngine] INFO 2015-01-27 00:00:12,696 [CleanProcessor] INFO - Pol |
| PdfServer | 2015-01-27 00:00:12,752 [CleanProcessor] INFO - Dis 2015-01-27 00:00:23,074 [DD2DiscoveryEngine] ERRC 2015-01-27 00:00:23,075 [DD2DiscoveryEngine] ERRC |
| Postgresql | 2015-01-27 00:01:03,861 [DD2DiscoveryEngine] ERRC 2015-01-27 00:01:03,861 [DD2DiscoveryEngine] ERRC |
| Backup & Restore | 2015-01-27 00:01:44,595 [DD2DiscoveryEngine] ERRC 2015-01-27 00:01:44,595 [DD2DiscoveryEngine] ERRC 2015-01-27 00:02:25,338 [DD2DiscoveryEngine] ERRC |
| モジュール | |
| Queue | 2015-01-26 15:49:05,815: [DEBUG] [4292] [(null)] Lo 2015-01-26 15:49:05,846: [INFO] [2464] [(null)] Log 2015-01-26 15:49:05,930: [DEBUG] [4292] [(null)] Lo |
| PdfServer | 2015-01-26 15:49:05,937: [DEBUG] [3964] [(null)] Lo 2015-01-26 15:49:05,940: [DEBUG] [3964] [(null)] Lo |
| Postgresql | 2015-01-26 15:49:05,941: [INFO] [5072] [JT:0000E-f 2015-01-26 15:49:05,959: [DEBUG] [5072] [JT:0000E |
| Backup & Restore | 2015-01-26 15:49:06,102: [DEBUG] [5072] [JT:0000E 2015-01-26 15:49:06,533: [DEBUG] [5072] [JT:0000E 2015-01-26 15:49:06,565: [INFO] [5072] [JT:0000E-f 2015-01-26 15:49:06,566: [DEBUG] [2744] [(null)] Lo |
| モジュール | |
| Queue | 2015-03-02 16:51:36 JST LOG: database system was 2015-03-02 16:51:36 JST LOG: database system is re 2015-03-02 16:51:36 JST LOG: autovacuum launcher |
| PdfServer | 2015-03-02 16:52:16 JST ERROR: database "callisto" 2015-03-02 16:52:16 JST STATEMENT: CREATE DAT/ |
| Postgresql | 2015-03-02 16:52:17 JST ERROR: relation "kmuserao 2015-03-02 16:52:17 JST STATEMENT: SELECT * FR 2015-03-02 16:52:31 JST LOG: could not receive dat |
| Backup & Restore | 2015-03-02 16:52:31 JST LOG: could not receive dat |
| モジュール | |
| Queue | 2015-01-19 19:24:50,396 [main] INFO - Starting servi 2015-01-19 19:24:50,399 [main] INFO - Listening for 2015-01-19 19:24:57,056 [Thread-1] INFO - Stopped |
| PdfServer | 2015-01-19 19:26:00,333 [main] INFO - Starting servi 2015-01-19 19:26:00,336 [main] INFO - Listening for |
| Postgresql | 2015-01-19 19:28:24,099 [Thread-1] INFO - Stopped 2015-01-19 19:30:35,120 [main] INFO - Starting servi 2015-01-19 19:30:35,245 [main] INFO - Listening for |
| Backup & Restore | |

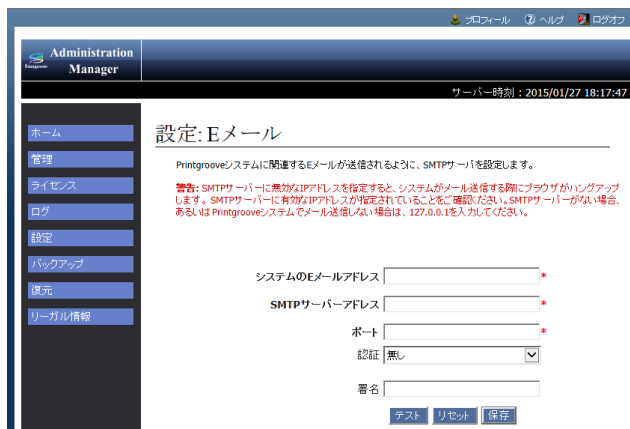
- 4 [モジュール] にファイルがない場合、この部分は空白になります。
- 5 ファイルが表示領域より大きい場合は、スクロールバーが表示され、すべての内容を確認できるようになります。

3.5 「設定」メニューオプションの使用方法

「設定」メニューを使用すると、Printgroove サーバーの E メールや LDAP システムの初期設定値を設定できます。

メニューの「設定」をクリックすると、2 階層目のメニューの「E メール」と「LDAP」が表示されます。

初期設定では、「E メール」が選択されています。メインパネルのモジュールリストはありません。



3.5.1 「設定」→「E メール」オプション

「設定」→「E メール」オプションを使用すると、Queue サーバーがシステム関連の E メールを送信できるように、SMTP E メールサーバーを設定できます。

「E メール」の設定方法

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 「設定」→「E メール」をクリックします。メインパネルに「設定：E メール」画面が表示されます。初期設定では、すべての項目が設定されていません。
- 3 「システムの E メールアドレス」フィールドに入力します。これは、システムが送信する Eメールの「送信者」のアドレスになります。
- 4 「SMTP サーバーアドレス」フィールドに入力します。使用している E メールサーバーの値を入力します。
- 5 「ポート」フィールドに入力します。使用している E メールサーバーの値を入力します。

- 6 [署名] フィールドに入力します。E メール送信者の名前です。
- 7 E メールアカウントへのアクセスに認証を必要としない場合は、[認証] の値を初期設定の[無し]のままにします。
- 8 認証が必要な場合は、[認証] ドロップダウンリストから[必要] を選択します。[ユーザー名] と [パスワード] の2つのフィールドが追加されます。E メールホストが使用する値を入力します。必要に応じて、[SMTP サーバーアドレス] フィールドに入力して、E メールホストが使用する値を設定します。
- 9 [テスト] をクリックして、設定を確認します。[テストアカウント] 画面が表示されます。

- 10 以下の2つのステップでテストが実行されます。
- 11 [SMTP サーバーへの Ping] : [Ping] をクリックして、SMTP サーバーのアドレスを検証します。Ping の実行中は、タイマーが表示されます。Ping を終了する場合は、[キャンセル] をクリックします。Ping が完了すると、画面に成功または失敗のメッセージが表示されます。
- 12 [テストメールの送信] : [システムの E メールアドレス] に入力したアドレスが、[送信者] フィールドに表示されます。[受信者] フィールドにアドレスを入力します。これはテストメールの送信先アドレスです。

- 13 [送信] をクリックしてテストメールを送信する、または[キャンセル] をクリックしてテストメールの送信をキャンセルします。
- 14 画面に成功または失敗のメッセージが表示されます。
- 15 変更を適用するには、[保存] をクリックします。
- 16 すべてのフィールドを初期設定に戻すには、[リセット] をクリックします。

3.5.2 設定：[LDAP] メニューオプション

Printgroove では、[Active Directory] や他にサポートされている [ログイン認証] オプション ([OpenLDAP] など) と [LDAP] を併用できます。

[設定] → [LDAP] をクリックすると、メインパネルに LDAP 画面が表示されます。なお、メインパネルのモジュールリストはありません。



Active Directory 認証で [LDAP] を使用する方法

Printgroove で Microsoft Active Directory LDAP サーバーを使用する場合は、このオプションを使用します。このオプションでは、Printgroove システムが使用するユーザー認証に既存の LDAP ベースのシステムを設定します。Printgroove で有効なユーザーとみなされた各ユーザーは、LDAP サーバーで認証できます。

この設定を使用してユーザーが Printgroove にログインすると、データが Active Directory LDAP サーバーに渡されて認証が実行されます。ユーザー名とパスワードが有効な場合は、Printgroove へのログインが許可されます。

LDAP 認証を使用する場合は、最初に Printgroove でユーザーのアカウントを作成する必要があります。これにより、ユーザーアカウントに正しい権限が関連付けられます。最初に Printgroove でユーザーアカウントを作成しないと、LDAP ユーザーはログインできません。

Printgroove と企業の LDAP サーバーの両方にユーザーが登録されていない場合は、ログイン認証が正しく動作しません。

Printgroove と顧客の LDAP システム間で実行されるこの認証方法は、現在 SSL 暗号化をサポートしていません。顧客側のネットワーク環境を計画する場合は、この制限を考慮に入れてください。Microsoft Active Directory や Open LDAP を使用した認証には対応していません。

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [設定] → [LDAP] をクリックします。メインパネルに [設定 : LDAP] オプションが表示されます。



- 3 [LDAP の使用] ドロップダウンメニューから、[Active Directory 認証] を選択します。[Active Directory 認証] フィールドが表示されます。

設定: LDAP

ユーザ認証を選択させるためにLDAPサーバーを設定してください。この設定はPrintgroove上の全てのシステムに影響します。

LDAPの使用 Active Directory認証

Active Directory認証

ホストアドレス

ポート

ドメイン名

- 4 初期設定では、すべての項目が設定されていません。
- 5 [ホストアドレス] フィールドに、LDAP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。

- 6 [ポート] フィールドに、LDAP サーバーが使用するポートを入力します（初期設定は 389）。
- 7 [ドメイン名] フィールドに、ユーザーが所属するドメインを入力します。
- 8 [テスト] をクリックして、設定を確認します。[テストアカウント] フィールドが表示されます。

設定: LDAP

ユーザ認証を選択させるためにLDAPサーバーを設定してください。この設定はPrintgroove上の全てのシステムに影響します。

LDAPの使用 ログイン認証

ログイン認証

ホストアドレス

ポート 389

ユーザーリルート ou
(ou=People,dc=sec,dc=net)

ユーザーネームフィールド me

テスト リセット 保存

テストアカウント

ユーザー名とパスワードを入力してください。

ユーザー名

パスワード

キャンセル 送信

- 9 [ユーザー名] と [パスワード] にアカウントの値を入力します。
- 10 [送信] をクリックしてテストメールを送信する、または [キャンセル] をクリックしてテストメールの送信をキャンセルします。
- 11 画面に成功または失敗のメッセージが表示されます。
- 12 変更を適用するには、[保存] をクリックします。
- 13 すべてのフィールドを初期設定に戻すには、[リセット] をクリックします。

[LDAP] ログイン認証の使用方法

Printgroove で、Open LDAP など一般的な種類の LDAP サーバーを使用する必要がある場合は、このオプションを使用します。

Printgroove ログイン認証は、ユーザーとして LDAP サーバーにログイン試行します。LDAP ツリーに保存されたユーザーは、読み取り専用アクセスの権限でログインできます。LDAP サーバーにログインできるユーザーは、Printgroove の有効なユーザーであるとみなされます。

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [設定] → [LDAP] をクリックします。メインパネルに [設定 : LDAP] オプションが表示されます。
- 3 [LDAP の使用] ドロップダウンメニューから、[ログイン認証] を選択します。[ログイン認証] フィールドが表示されます。

設定: LDAP

ユーザ認証を選択させるためにLDAPサーバーを設定してください。この設定はPrintgroove上の全てのシステムに影響します。

The image shows a web-based configuration form for LDAP. At the top, there's a section titled 'LDAP の使用' (LDAP Usage) with a dropdown menu set to 'ログイン認証' (Login Authentication). Below this, there's a section titled 'ログイン認証' (Login Authentication) with several input fields: 'ホストアドレス' (Host Address), 'ポート' (Port) set to 389, 'ユーザーツリールート' (User Tree Root) with a hint '(ou=People,dc=sec,dc=net)', and 'ユーザーネームフィールド' (User Name Field). At the bottom of the form are three buttons: 'テスト' (Test), 'リセット' (Reset), and '保存' (Save).

- 4 初期設定では、すべての項目が設定されていません。
- 5 [ホストアドレス] フィールドに、LDAP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
- 6 [ポート] フィールドに、LDAP サーバーが使用するポートを入力します (初期設定は 389)。
- 7 ユーザーアカウントが保存される LDAP ツリーのブランチを入力します。これは、ログイン試行時に [ユーザーツリールート] フィールドのユーザー名に付加されます (例 : uid = joeuser、ou = people、dc = sec、dc = net)。
- 8 ユーザー識別情報 (例 : uid = joeuser) が含まれた LDAP ツリーの [ユーザーネームフィールド] に入力します。

- 9 [テスト] をクリックして、設定を確認します。[テストアカウント] フィールドが表示されます。

設定: LDAP

ユーザ認証を選択させるためにLDAPサーバーを設定してください。この設定はPrintgroove上の全てのシステムに影響します。

LDAPの使用 ログイン認証

ログイン認証

ホストアドレス

ポート 389

ユーザーリルート ou
(ou=People,dc=sec,dc=net)

ユーザーネームフィールド me

テスト リセット 保存

テストアカウント

ユーザー名とパスワードを入力してください。

ユーザー名

パスワード

キャンセル 送信

- 10 [ユーザー名] と [パスワード] にアカウントの値を入力します。
- 11 [送信] をクリックしてテストメールを送信する、または [キャンセル] をクリックしてテストメールの送信をキャンセルします。
- 12 画面に成功または失敗のメッセージが表示されます。
- 13 変更を適用するには、[保存] をクリックします。
- 14 すべてのフィールドを初期設定に戻すには、[リセット] をクリックします。

3.6 [バックアップ] メニューオプションの使用法

[バックアップ] メニューオプションを使用すると、Printgroove Queue によって保存または使用されたデータをバックアップできます。このデータには、ジョブやジョブの関連ファイルが含まれます。

Ubuntu ベースの Queue/Administrator を使用して作成されたバックアップファイルは、Windows バージョンの場合は古い OS のバックアップファイルから復元できます。

Printgroove サーバーに保存されたデータは、サイズが大きくなる可能性があります。このデータを安全に保存するために、バックアップシステムはバックアップデータを保存先のストレージメディアのサイズに応じて分割し保存します。(直接 DVD にバックアップされませんが、DVD 用の一時ファイルディレクトリを使用します)。

バックアップ機能は、顧客データの復元が必要な場合に使用します。復元時は、レスキュー DVD を使用してインストールが必要なパッチを読み込み、データを復元します。

メニューの [バックアップ] には、2 階層目のメニューおよびモジュールリストのオプションはありません。

3.6.1 [バックアップ] の設定方法

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [バックアップ] をクリックします。メインパネルに [システムバックアップ] 画面が表示されます。

Administration Manager

システムバックアップ

現在のシステムの状態をバックアップします。

メディアサイズ [DVD(4GB)]

メール通知

送信先アドレス

送信元アドレス

バックアップファイルを次の Windows 共有フォルダに送信:

ドメイン名

IPアドレス

共有フォルダ名

ユーザー名

パスワード

確認確認 クリア

スケジュール

注意: バックアップ中はバックアップが完了するまで全てのユーザーはログイン出来ません

実行スケジュール []

有効 キャンセル 保存

- 3 初期設定では、すべての項目が設定されていません。
- 4 [メディアサイズ] オプションは、初期設定の [DVD(4GB)] が選択されています。この値は、セグメントごとの最大ファイルサイズの設定に使用されます。この項目を変更することはできません。
- 5 [E メール通知] セクションで、[送信先アドレス] と [送信元アドレス] のテキストフィールドに値を入力します。Printgroove は、バックアップステータスに関する通知を E メールで [送信先アドレス] に送信します。
- 6 バックアップのファイルセットは、指定されたディレクトリに保存されます。DVD に保存する場合は、このファイルセットをコピーする必要があります。バックアップセットを一時保存場所へ送信するには、以下のフィールドにサーバー情報を入力します。
 - [ドメイン名]：サーバーが置かれているネットワークドメインの名前。
 - [IP アドレス]：Windows サーバーの IP アドレス（例：12.34.56.78）。
 - [共有フォルダ名]：一時保存ディレクトリの名前（パスではなく、フォルダ名のみを入力します）。
 - [ユーザー名]：Windows サーバーへの書き込みアクセス権限を持つアカウントのユーザー名。
 - [パスワード]：Windows アカウントのパスワード。
- 7 [接続確認]：設定が有効であることを確認します。画面に成功または失敗のメッセージが表示されます。
- 8 入力した値を削除し、フィールドの値を初期設定に戻すには、[クリア] をクリックします。確認画面が表示されます。
- 9 設定が有効になると、[クリア] オプションは使用できなくなり、画面に表示されません。
- 10 バックアッププロセスは、指定した間隔で自動的に実行されるようにスケジュールを設定できます。自動機能を使用しない場合は、[無し]（初期設定）のままにします。
- 11 バックアップのスケジュールを設定するには、[実行スケジュール] ドロップダウンメニューから間隔（[毎日]、[毎週]、[毎月]）を選択します。

- 12 バックアップの詳細画面が表示されます。以下の例では、[毎週] オプションが選択され、毎週土曜日の午前 1 時にバックアップのスケジュールが設定されています。

スケジュール

注意: バックアップ中はバックアップが完了するまで全てのユーザーはログイン出来ません。

実行スケジュール 毎週 ▼

| | | |
|------------------------------|------------------------------|---|
| 月曜日 <input type="checkbox"/> | 火曜日 <input type="checkbox"/> | 水曜日 <input type="checkbox"/> |
| 木曜日 <input type="checkbox"/> | 金曜日 <input type="checkbox"/> | 土曜日 <input checked="" type="checkbox"/> |
| 日曜日 <input type="checkbox"/> | | |

開始時間: 1 * 0 * 午前 ▼ *

有効 キャンセル 保存



ご注意

バックアップの実行中は Printgroove システムにアクセスできないため、バックアップはユーザーが一定期間操作しない夜間や週末にスケジュールを設定する必要があります。

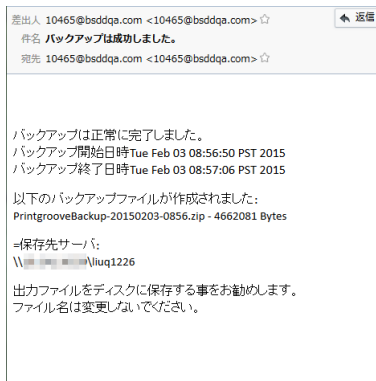
- 13 [有効] をクリックしてシステムのバックアップを設定する、または [キャンセル] をクリックして設定を取り消します。
- 14 画面に成功または失敗のメッセージが表示されます。
- 15 変更を保存するには、[保存] をクリックします。

3.6.2 「バックアップ」設定のメッセージ

バックアップが実行されるたびに、システムのバックアップ設定で指定された送信先に E メールが送信されます。以下のいずれかのメッセージが送信されます。

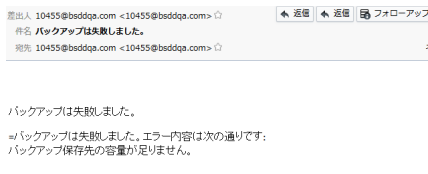
バックアップは成功しました。

バックアップが成功すると、「バックアップは成功しました .msg」という件名の E メールが送信されます。



バックアップは失敗しました。

バックアップが失敗すると、「バックアップは失敗しました .msg」という件名の E メールが送信されます。E メールは、以下の形式で送信されます。



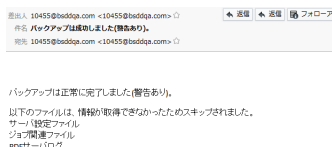
Eメールの本文には、以下のいずれかの該当するエラーメッセージが表示されます。

- バックアップ保存先の容量が足りません。
- 指定されたユーザアカウントは無効化されています。
- アクセスが拒否されました。
- サーバメモリ (RAM) が不足しています。

- 指定された保存先へのファイル書き込み中にエラーが発生しました。

バックアップは成功しました (警告あり)。

バックアップが完了しても、処理中にエラーが発生した場合は、「バックアップは成功しました (警告あり).msg」という件名の E メールが送信されます。E メールは、以下の形式で送信されます。



差出人: 10455@buddqa.com <10455@buddqa.com> ◯
件名: バックアップは成功しました(警告あり).
宛先: 10455@buddqa.com <10455@buddqa.com> ◯

バックアップは正常に完了しました(警告あり).
以下のファイルは、情報が取得できなかったためスキップされました。
サーバ設定ファイル
ジョブ関連ファイル
PDFサーバログ

Eメールの本文には、以下の該当する説明が1つ以上表示されます。説明が2つ以上ある場合は、それぞれ1行ずつ表示されます。

- サーバ設定ファイル
- ジョブ関連ファイル
- PDF サーバログ
- PostgreSQL ログ
- Printgroove POD Queue データベース
- Administration Manager データ

3.7 [復元] メニューオプションの使用法

Printgroove の情報が失われた場合は、[復元] メニューオプションを使用して、指定したバックアップファイルから Printgroove を復元できます。



ご注意

復元を使用するには、指定されたバックアップオプションが有効で、バックアップレコードが作成されている必要があります。バックアップを有効にする方法については、32 ページの「[バックアップ] の設定方法」をご覧ください。

3.7.1 [復元] の設定方法

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 [復元] をクリックします。メインパネルに [システムの復元] 画面が表示されます。

- 3 初期設定では、すべての項目が設定されていません。
- 4 [E メール通知] セクションで、[送信先アドレス] と [送信元アドレス] のテキストフィールドに値を入力します。Printgroove は、復元のステータスに関する通知を E メールで [送信先アドレス] に送信します。[送信元アドレス] は、[送信者] フィールドに表示される値です。

- 5 Printgroove にデータを復元するには、実行可能なバックアップの作成時に実行されていた同じバージョンのソフトウェアが実行されている必要があります。バックアップの作成時に使用した値を [ドメイン名]、[IP アドレス]、[共有フォルダ名] に入力し、バックアップされたすべてのセグメントを Windows 共有フォルダに置きます。
- 6 バックアップのファイルセットは、リモートの場所に保存されます。この場所は、[システムバックアップ] 画面で指定します。バックアップデータにアクセスするには、[システムバックアップ] 画面で入力した値を以下のフィールドに入力します。
 - ドメイン名
 - IP アドレス
 - 共有フォルダ名
 - ユーザー名
 - パスワード
- 7 値の入力後、[接続確認] をクリックします。Windows 共有フォルダに接続され、Printgroove により書き込みアクセスおよびバックアップセグメントの整合性が確認されます。(少し時間がかかる場合があります。)
- 8 接続確認が正しく完了すると、[復元] がクリックできるようになります。[復元] をクリックして、復元を実行します。数分以内に開始されます。復元が完了すると、[送信先アドレス] に指定したユーザーに E メールが送信されます。



ご注意

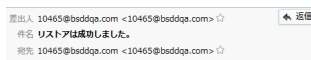
バックアップのファイルセット以外のファイルを、共有フォルダに置かないでください。上記の Windows 共有フォルダに、バックアップ以外のファイルが置かれていないことを確認してください。

3.7.2 [復元] 設定のメッセージ

復元が実行されるたびに、システムの復元設定で指定された送信先に E メールが送信されます。以下のいずれかのメッセージが送信されます。

リストアは成功しました。

復元が正しく完了すると、「リストアは成功しました .msg」という件名の E メールが送信されます。



リストアは正常に完了しました。

システムは以下のセグメントよりリストアされました:
PrintgrooveBackup-20150203-0856.zip - 4662081 Bytes

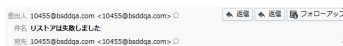
取得先サーバー:
\\10.241.36.50\\luuq1226

リストア開始日時 Tue Feb 03 09:00:19 PST 2015

リストア終了日時 Tue Feb 03 09:01:27 PST 2015

リストアは失敗しました

復元が失敗すると、「リストアは失敗しました .msg」という件名の E メールが送信されます。E メールは、以下の形式で送信されます。



リストアは失敗しました。エラー内容は次の通りです:
Backup.zipファイルが取得できませんでした。

Eメールの本文には、以下のいずれかの該当するエラーメッセージが表示されます。

- Backup.zip ファイルが取得できませんでした。
- Backup.zip ファイルが破損している可能性があります。

リストアは正常に完了しました (警告あり)。

復元が完了しても、処理中にエラーが発生した場合は、「リストアは成功しました (警告あり).msg」という件名の E メールが送信されます。E メールは、以下の形式で送信されます。



差出人: 10455@baidqa.com <10455@baidqa.com>
件名: リストアは成功しました(警告あり).
宛先: 10455@baidqa.com <10455@baidqa.com>

リストアは正常に完了しました(警告あり).
エラー内容は次の通りです。
バックアップファイルにJobDocフォルダが存在しません。
バックアップファイルにPDFサーバログフォルダが存在しません。
バックアップファイルにPostgreSQLログフォルダが存在しません。
バックアップファイルにTomcatログフォルダが存在しません。
バックアップファイルに設定ファイルフォルダが存在しません。

Eメールの本文には、以下のいずれかの該当するエラーメッセージが表示されます。

- バックアップファイルに JobDoc フォルダが存在しません。
- バックアップファイルに PDF サーバログフォルダが存在しません。
- バックアップファイルに PostGreSQL ログフォルダが存在しません。
- バックアップファイルに Tomcat ログフォルダが存在しません。
- バックアップファイルに設定ファイルフォルダが存在しません。

3.8 「リーガル情報」メニューオプションについて

「リーガル情報」メニューオプションを使用すると、Printgroove Queue サーバーに関連するコニカミノルタ製品とサードパーティ製品のすべてのライセンスを確認できます。

- 1 Administration Manager にログインします。
- 2 「リーガル情報」メニューオプションをクリックします。メインパネルに「リーガル情報」画面が表示されます。



- 3 必要に応じて、スクロールして表示します。

お問い合わせは

■ 販売店連絡先

| 《販売店 連絡先》 |
|-----------|
| 販売店名 |
| 電話番号 |
| 担当部門 |
| 担当者 |

■ 保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ

この商品の保守・操作方法・修理・サポートについてのお問い合わせは、お買い上げの販売店、サービス実施店にご連絡ください。

| 《保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ先》 |
|-------------------------|
| TEL |

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1

当社についての詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。 <http://bj.konicaminolta.jp>

当社に関する要望、ご意見、ご相談、その他お困りの点などございましたら、お客様相談室にご連絡ください。
お客様相談室電話番号 フリーダイヤル:0120-805039 (受付時間: 土、日、祝日を除く9:00~12:00 / 13:00~17:00)



KONICA MINOLTA

国内総販売元

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

製造元

コニカミノルタ株式会社

Copyright